

こども新聞
週刊

がほピョンプレス

毎週日曜発行

2026 1/18

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)

きょうのテーマ

みんなの将来

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ

鷹匠の仕事学ぶ

ニュース

も
教えて

こども記者が取材



鷹匠の松原さんに取材するこども記者

鋭い目とかぎ爪を持つタカを使って狩りをする鷹匠を知っているかな？ 山形県天童市の松原英俊さん(75)は半世紀

以上、鷹匠として生きてきました。宮城県松島町松島中3年の長倉茅代さん(15)と同松島五小5年の飯嶋榮人さん(10)の2人が、こども記者として松原さん取材しました。(8面に関連記事)

松原さんは現在、市の許可を得て自宅敷地内の小屋でクマタカやニシオオノスリなど5羽を飼育

タカと生きる 思い熱く

しています。1番の相棒は、20年ほど連れ添うクマタカ「加無号」です。



狩りは12〜4月の冬が本場。松原さんは週2回ほどタカを左腕に乗せ、月山などの雪山に入りま

す。野ウサギなど小動物が獲物です。野生なら空から獲物を見つけて急降下できますが、鷹匠の腕から飛び立つタカはそこ

まで急降下できません。「雪山の尾根を歩き、谷側にいる獲物を探します」と教えてくれました。

タカは空腹でないと、獲物を捕まえません。こども記者が「どんな訓練をしますか」と質問すると「絶食を繰り返して空腹状態にしていく。

やり過ぎると弱る。その見極めが鷹匠の腕の見せどころです」と松原さん。調教技術を身に付けるには、数年かかるそうです。

松原さんは幼いころから生き物が好きで、日本野鳥の会に入会して鳥を観察したりしていま

した。同時に山も好きで、中学から山岳部に入り、登山に親しみました。

大学時代、卒業後の進路を考えたとき「山に入り、生き物で生き物を捕まえる鷹匠が、自分には

ぴったりだ」と思った松原さんは、24歳の時に山形県真室川町に住んでいた鷹匠沓沢朝治さん(故人)に弟子入りしました。

電気ガス水道のない山小屋で、タカと暮らす日々を15年続けました。



「1番うれしかったことは何ですか」。こども

記者が問うと「自分が訓練したタカが初めてウサギを捕まえたときです。

4年半かかりました。この一瞬のために生きてきたんだと号泣しました」と答えました。

近年は獲物を捕まえても全く収入にはなりません。「お金は関係ない。タカと共に生きたい。自分にあるのは、ひたすら

にその情熱のみです」。松原さんの言葉に、2人は圧倒されていました。

この日 何の日

◇20日(火) トランプ米大統領 就任1年

昨年この日、ドナルド・トランプ氏(79)が第47代米大統領に就任しました。米国の利益を最優先する米国第一主義を掲げ、貿易国に経済的な取引を迫る「トランプ関税」などで世界に波紋を広げています。

今日の紙面

- 2面 ミラノ・コルティナ五輪特集
- 3面 3分チャレンジ
- 4・5面 わが校わがまち スクール通信
- 6面 キホンがわかる こども英語
- 7面 投稿特集
- 8面 狩りの様子を実演